

今回、新城市民病院の総合内科の先生方のご指導のもと、総合診療における問診、診察の重要性、診察手技、鑑別診断の広げ方などをご指導いただきました。

今まで、夜間当直での診察では緊急性ばかりに目を向け、詳細なアセスメントはできていなかったことを痛感しました。救急外来では、スピードが求められるため、状況は少し変わってしまいますが、今回、新城市民病院で学んだ知識、技術を少しでも現場で活かせるように努力したいと思います。

また今回の研修では、へき地に従事する医師にとって、緊急性の有無の判断はとても重要な能力であり、しかもその判断は救急搬送をしなくてはならないという条件を考えれば、よりスピーディーなものでなくてはならないものだと実感しました。

日ごろ、研修している渥美病院も、地域で求められている役割は似ており、新城市民病院で研修させて頂くことで、渥美病院の役割を再認識することができました。

新城市の介護老人福祉施設である、サマリヤの丘では介護施設の在り方についてご説明いただきました。今まで施設に関して不勉強であったため、いろいろと疑問に思っていたことがありましたが、丁寧に質問にも答えて頂き、大変勉強になりました。

今回、個人的にもっとも勉強になったことは、医学知識に関する学習の仕方とその意義について自分で考える機会を頂いたことです。

今まで、あくまで研修医は医者なのだということを、頭では理解していましたが、学生根性が抜けず、上級医の先生に甘えてしまうことが多々あり、常に教えてもらうことばかり考えていたように思います。

新城市民病院 総合内科では、丁寧なご指導をその時々でして頂きました。

それに加え、先生方は **up to date** ,**EBM** などの勉強会を通し、毎日研鑽に励んでおられ、その意義についても丁寧に説明して頂きました。

正直、自分が最も苦手とし、避けていた分野の内容でしたが、まずできることからやってみようという考えに至りました。これは大きな進歩だと我ながら思います。

自分でエビデンスを引っ張り出してくる癖を、意識的につけていきたいと思います。

最後に、総合内科の先生方をはじめ、お忙しい中ご指導賜りましたスタッフの皆様方に、深くお礼申し上げます。